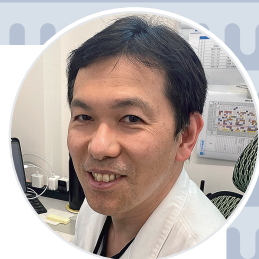


特集 そのトラブル，どう対処する？ 人工呼吸編



編集責任

横浜市立市民病院 臨床工学部

相嶋一登 AISHIMA, Kazuto

本特集は臨床工学技士3大業務のうち、人工呼吸・呼吸療法に関連するトラブル対応を取り上げた。

人工呼吸器は生命維持管理装置のなかでも最も多く使用されている。また、人工呼吸器を装着している患者は低出生体重児から高齢者まで、そしてその使用場所は集中治療室から患者居宅、さらには町中、学校に至るまで、医療が行われているすべての場所で使用される。したがって人工呼吸を行う場の環境、設備は多岐にわたっており、人工呼吸の安全管理もそれぞれの場面に応じた対策が必要となる。

人工呼吸を安全に実施するには、電気、医療ガス設備、人工呼吸器、呼吸回路、加温加湿器、人工気道までのすべてが適正に管理、運用されなければならない。そのため、本特集ではそれぞれの項目ごとに過去に発生したトラブル事例、想定されるトラブル事例を紹介し、その対応策や予防策を解説している。著者の先生方は呼吸療法の経験が豊富であり、さまざまなトラブルを自らも経験されていることから、より具体的かつ迫真性に満ちた解説になっている。

2021年10月に施行された改正臨床工

学技士法では、手術室、集中治療室における薬剤投与が新たに認められることになった。人工呼吸を適正に実施するには、鎮痛鎮静管理についても専門的な知識が要求されるようになるので、改めて鎮痛鎮静管理についてご確認いただきたい。

また、新型コロナウイルス感染症対応においては、多くの施設で通常とは異なった管理体制の下で人工呼吸が行われることになった。臨床工学技士による使用中点検については、個人防護具の不足などから点検頻度を減らしたり、看護師に点検業務を委譲したりといった対応が取られた。その結果、通常では防止できていたトラブルの発生が散見された。

トラブル対応は、臨床工学技士としての基本的業務であるが、本当に重要なことはトラブルを起こさないことである。過去の経験を踏まえてトラブルの発生を予測し、トラブル発生前に対策を講じることが現代の臨床工学技士に求められている。

本書がトラブル対応のHow toだけでなく、トラブルを回避するための教訓として活用されることを願っている。